

## 述部に現れる「まずまず」「まあまあ」「そこそこ」の評価的機能

原 美築 (名古屋大学大学院博士後期課程)

### 要旨

本稿は、「まずまず」「まあまあ」「そこそこ」の3語を取り上げ、述部に現れる用例の分析により、評価的な側面から見たときの各語の機能について具体的に記述することを目的とする。そのために、述部に現れる3語を「応答表現」「相対的評価表現」「絶対的評価表現」にそれぞれ分類し、考察した。その結果、「まずまず」は「ある一定水準以上の高評価」を表す傾向が強く、並み以下の評価はほとんど表さないことが明らかとなった。一方、「まあまあ」は高評価を表す用例が多く見られるものの、高くも低くもない中間的な評価を表す用例も少なくなく、「肯定(高評価)の度合いを抑える評価機能」が認められることが分かった。また、「そこそこ」は、数値を伴う用例が他の2語より少ないことから、述部に現れる用例であっても、話し手の評価を伝達する働きは他の2語より弱いと考えられる。

### 1. はじめに

本稿で取り上げる「まずまず」「まあまあ」「そこそこ」の3語は(1)に見られるような程度を表す副詞としての用法を持つ。また、3語には(2)のように、名詞を修飾する用例や、(3)のように述部に現れる用例も多く見られる((1)~(3)はいずれも作例)。

(1) 新商品の売れ行きは(まずまず/まあまあ/そこそこ)好調だ。

(2) 彼は県大会で(まずまず/まあまあ/そこそこ)の成績を残した。

(3) 試験の手ごたえは(まずまず/まあまあ/そこそこ)だった。

このように、名詞を修飾したり述部に現れたりする用法を持ち、「相当以下」の程度限定の意味を持つ副詞は、話し手の心内における判断である「評価」の側面を持つと考えられている(渡辺(1990)、田和(2017))。本稿で取り上げる「まずまず」「まあまあ」「そこそこ」は、それに当てはまると考えられる。「程度の限定」という側面のみに焦点を当てると、「まずまず」「まあまあ」「そこそこ」には明確な差異があるとは捉えにくい。現代語において、いずれも淘汰されることなく日常的に用いられていることから、3語にはそれぞれ「程度の限定」以外の意味的な役割である「評価」の側面で特徴があると考えられる。こと述部に現れる用例においては、話し手の評価的な観点の介入が起こる可能性が高く、それらの用例を分析することで、3語の「評価」の側面での違いを見出すことが可能であると考えられる。

そこで、本稿では「まずまず」「まあまあ」「そこそこ」が述部に現れる用例を取りあげ、それらに下位分類を施した上で、各語の評価の側面から意味機能を明らかにする。

### 2. 先行研究

各語を意味的な側面から記述した先行研究には、「まあまあ」に苗田(2003)、「そこそこ」に鈴木(2011)がある。

苗田(2003)は、辞書に掲載されている「まあまあ」の用例を取り上げ、用法ごと<sup>1</sup>に程度性を

<sup>1</sup> 苗田(2003)は辞書類による用例を「形容詞・形容動詞を修飾する用法」、「名詞を修飾する用法」、「副

考察し、「話し手によって差はあるが、満足・許容できる程度を表しているといえる（苗田(2003);p84)」という結論を導いている。ここに見られる「満足・許容できる」という点は、話し手による感情や評価判断によるものであるといえる。

鈴木(2011)は、「そこそこ」について、「《自賛》の抑制機能と、与益表現における負債の緩和機能がある（鈴木(2011);p88）」とし、『『そこそこです』』というような謙遜表現には、否定型の謙遜表現とは違い、謙遜しつつも、ある程度自身を認めるといったニュアンスが含まれる（鈴木(2011);p88）」といった指摘をしている。

しかし、「満足・許容」あるいは「謙遜しつつもある程度自信を認める」といった話し手の心的態度は「まあまあ」や「そこそこ」のみに認められるものではない。先に挙げた(1)~(3)の用例をみると、3語とも「満足・許容できる」程度であると考えることが可能である。また、相手から自分や身内の能力を尋ねられたときの返答を想定した場合、「まずまずです」や「まあまあです」といった場合も「謙遜しつつもある程度自信を認める」といった「自賛の抑制」は当てはめられる。よって、先行研究で述べられている意味特徴は各語特有のものであるとはいえない。本稿では、先行研究ではなされていない「まずまず」「まあまあ」「そこそこ」固有の評価機能の特徴についての記述を目指す。

### 3. 調査方法

『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』(以下、BCCWJ)を用いて、対象とした3語それぞれの全用例を採取した<sup>2</sup>。それらの用例の中から「程度を表す用法」として用いられているものを抽出した結果、「まずまず」で269件、「まあまあ」で419件、「そこそこ」で705件が該当した。そこから述部に現れる用例を取り出した結果、「まずまず」で128件、「まあまあ」で192件、「そこそこ」で81件が、本稿で対象とする「述部に現れる用例」として認められた。

このように収集した述部に現れる用例を「評価」の観点から分析するために、「①質問への応答として用いられるもの（応答表現）」、「②比較基準<sup>3</sup>を伴い相対的に評価を表すもの（相対的評価表現）」、「③比較基準を伴わないもの（絶対的評価表現）」の3種類に大別した。

「①応答表現」に分類されるのは、質問に対する応答（返答）として対象語が使用されている用例である（用例(4)(5)）。ここに用いられる対象語は、質問に対する話し手の見方（是非の判断など）が含まれると考えられるため、各語が持つ評価の特性または傾向を考察する上で重要になってくると考えられる。応答表現については第4節で詳しく扱う。（以下、用例は全てBCCWJで検索されたものである。下線・波線・囲いは筆者による。）

(4) マットは情報を取りこんでからうなずくと、訊いてきた。「よかったのか?」「まあまあかな」彼はにやっと笑った。（書籍：LBo9\_00180）

(5) 「“はぐれ”？ どういうことだ、天馬。何か知ってるのか?」「そこそこってとこやな…よっ、と！」（書籍：LBo9\_00064）

「②相対的評価表現」に分類されるのは、対象語と比較可能な評価表現が共起する用例であ

詞等を修飾する用法」、「動詞を修飾する用法」、「『まあまあ』の形で連体修飾語として用いる用法」、「述語として用いる用法」の6種類の用法に分けて、それぞれの用例がどのような程度性を表していると考えられるかを記述している。

<sup>2</sup> それぞれ、検索キーを語彙素読み「マズマズ」「マアマア」「ソコソコ」とした。対象範囲は全範囲である。結果、「マズマズ」は306例、「マアマア」は651例、「ソコソコ」は920例が検索された。

<sup>3</sup> 比較基準と捉えられる語句に囲いを施している。以下同。

る(用例(6)(7))。例えば、(6)は「長寿」「大夭(早死)」という評価表現の中間的な評価として「まずまず」が使用されていることがわかる。ここに分類される用例には対象語以外の評価表現が表れ、それと比較することで対象語が「より上位の評価をしているのか」「より下位の評価をしているのか」「中位の評価をしているのか」を読み取ることができる。これによって、対象語がどのレベルの評価を表しやすいのかについての考察が可能となる。相対的評価表現については5節で詳しく扱う。

(6) 甘谷の戸数は三十余家にすぎないが、百二、三十歳を「長寿」と呼び、百歳あまりというのが「まずまず」で、七、八十歳で死ぬと「大夭」(早死)だといわれた。(書籍:LBf9\_00197)

(7) あなたと子どもの関わり度は?次の項目が「うまくできていたら」2点、「まあまあ」だったら1点、「うまくいかなかった」場合は0点です。(広報誌:OP51\_00003)

「③絶対的評価表現」に分類されるのは、応答表現でない用例のうち、比較基準となる評価表現の共起が見られない用例である(用例(8)(9))。3語とも、最も多く出現する用例であり、対象語の評価的な側面をより明確にするための観察が必要な群である。絶対的評価表現については6節で詳述する。

(8) 電池の積載量や短期間であったと思われる点からいえば、性能は「まずまず」であろう。

(書籍:LBf5\_00013)

(9) 母ちゃん、お湯にさとうをいれて、レモンをうかべてくれた。あじは「まあまあ」、見かけは父ちゃんのおんなじ。(書籍:LBen\_00018)

以上の3通りに用例を分類したところ、表1の結果を得た。

表1 述語用法/パターン別用例数・出現率

	応答表現	相対評価	絶対評価	合計
まずまず	2	12	114	128
	1.6%	9.4%	89.1%	100.0%
まあまあ	29	26	137	192
	15.1%	13.5%	71.4%	100.0%
そこそこ	7	14	60	81
	8.6%	17.3%	74.1%	100.0%

表1より、3語とも絶対的評価表現が最も出現率が高いことがわかる。「まずまず」においてはその傾向がより顕著である。「まあまあ」においても絶対評価表現の割合は7割と高いものの、他の2語に比べて「応答表現」の出現率が高い点が特徴的である。「そこそこ」も絶対的評価表現をとる用例が7割を超えているが、相対的評価表現も比較的多く見られる。次節からそれぞれの表現分類による用例を、より詳細に分析し、各語の評価的な特徴を探る。

#### 4. 応答表現の詳細分析

応答表現の中には、「肯定的応答詞と共起する用例(用例(10))」「話し手の肯定的な評価が明確に読み取れる用例(用例(11))」「話し手の是非の評価が不明瞭な用例(用例(12))」の3通りがみられた。応答表現の用例を、これら3通りに分類した結果を表2に示す。

- (10) 「クリスマスは楽しかった？」チョウが聞いた。「うん、まあまあ」ハリーが答えた。(ベストセラー：OB6X\_00114)
- (11) 咲子は、最後にこんな質問をする。「二人の成績ってどうだったの?」「まあまあでしたよ。二人ともだいたいおんなじくらい。けっこう上位だったし。苦手な教科も似通ってたなあ。(書籍：PB29\_00370)
- (12) あんまり綺麗な人だからびっくりしちゃった。私が一度訊いたとき『まあまあかな』なんて浩さん言ってたくせにさ」(書籍：LBr9\_00215)

表2 応答表現の下位分類

	肯定共起	明確肯定	曖昧応答	合計
まずまず	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	2 100.0%
まあまあ	5 17.2%	4 13.8%	20 69.0%	29 100.0%
そこそこ	1 14.3%	0 0.0%	6 85.7%	7 100.0%

表2より、いずれの分類項目においても「まあまあ」の用例数が最も多い。質問に対する応答において、なぜ「まあまあ」が用いられやすいと考えられるのか、それぞれの分類における用例を取り上げ、以下で分析を行う。まずは肯定の応答詞と共起するタイプの用例をみる((13)(14))。

(13) 「クリスマスは楽しかった？」チョウが聞いた。「うん、まあまあ」ハリーが答えた。((10)再掲)

(14) 連絡があったのは、祥子が昌也と結婚してからはじめてだ。「ええ、まあまあよ」答える私の声には、かつてのような卑屈さはない。(書籍：LBr9\_00045)

「ええ」や「うん」は、それ単独で用いたとしても、質問者に肯定の意志を伝えるのに十分である。そのため、「まあまあ」は肯定の意志表示というよりも、肯定の度合い、または肯定の立場にある話者の態度を示すために用いられていると考えられる。例えば(13)であれば、「クリスマスは楽しかった？」という問いに対して、「うん」という返答をすることで、とりあえず「肯定」の意志を伝え、「まあまあ」を加えることで、「取り立てていうほどではないが」というような肯定の度合いを抑える意味を付加している。また、(14)の場合も、現在の生活の様子を問われた話し手が、「ええ」で肯定的な返答をしつつも、それが完全な状態であるわけではないといった肯定の度合いをやや下げる評価を「まあまあ」によって表している。

ここから、肯定の応答詞と共起する「まあまあ」は、質問に対して表明した肯定の度合いを話し手が「やや抑える」場合に用いられるといえる<sup>4</sup>。

<sup>4</sup> なお、このタイプの用例は「まずまず」「そこそこ」にも1例ずつ見られた。しかし、(a)(b)ともに応答詞のあとに、語を挟んだ上で「まずまず/そこそこ」が出ており、「まあまあ」の肯定表現共起の用例とはやや性質を異にする(肯定の度合いを抑えるというよりも、「調子」や「詳しさ」の程度レベルの限定として対象語が用いられている印象を受ける)。

(a) ティウリ、調子は?」「ああ、だいじょうぶ。少なくとも、まずまずだ。」(書籍：PB59\_00547)

また、「まあまあ」には、「はい」や「ええ」などの肯定の応答詞を伴わずに、質問に対して明確な肯定を表現する用例が見られる ((15)(16))。

(15) 咲子は、最後にこんな質問をする。「二人の成績ってどうだったの?」「まあまあでしたよ。二人ともだいたいおんなじくらい。けっこう上位だったし。苦手な教科も似通ってたなあ。((11)再掲)

(16) マットは情報を取りこんでからうなずくと、訊いてきた。「よかったのか?」「まあまあかな 彼はにやっと笑った。(書籍: LBo9\_00180)

(15)、(16)はそれぞれ物事の良し悪しに関する質問に対して「まあまあ」で回答している。肯定表現共起の用例では、肯定を表す表現に程度性を付加する形で「まあまあ」が用いられていたが、肯定表現を伴わずとも「まあまあ」のみで回答が行われる例が見られることが、これらの用例から分かる。しかし、例えば(15)、(16)の波線部を、否定的な意味と捉えさせるような文脈(「大したことがなかったし」「彼は不満げに眉をしかめた」など)にしても、それほど不自然にはならない。今回採取した用例の中には否定的な文脈の中での応答表現は見られなかったものの、「まあまあ」で応答される場合、その語自体に肯定の意味が含まれるとは限らない(むしろ、強くは肯定しない場合に「まあまあ」が用いられる)。このことは、以下に挙げる「曖昧応答」からも読み取れる ((17)(18))。

(17) あんまり綺麗な人だからびっくりしちゃった。私が一度訊いたとき『まあまあかな』なんて浩さん言ってたくせにさ」((12)再掲)

(18) 「セールスの成績のほうは、どうだったんでしょうか?」「まあまあというところじゃなかったでしょうか。可もなく不可もなくと言うか…」(書籍: LBf9\_00020)

(17)は、人の容姿を尋ねる質問に対して「まあまあ」という返答を受けた後、実際に目にした人物が『「まあまあ」という評価に似つかわしくなく綺麗な人だった」という感想を述べている。このようなやり取りは、話し手と受け手の人物に対する評価が異なったために行われたものであることから、「まあまあ」は「肯定的な評価」として受け止められにくい場合もあるとわかる。(18)は、後の文章の「可もなく不可もなくと言うか…」からもわかるように、質問に対して肯定することも否定することも憚られ、「どちらとも言えない」という明確でない評価判断を示している。

この「曖昧応答」の用例は「そこそこ」においても、散発的に見られるが、6例中4例は同一の人物によるブログの文章であることが何え ((19)参照)、出現数は「まあまあ」と比較し低い。また、「まずまず」において、ここに分類された用例は(20)のみである。

(19a) 「ウェブカメラ持ってる?」 ん…?? 「運転の仕方知ってる?」 そこそこ←「携帯何?」 あーうーの携帯ですが…?? (ブログ: OY14\_46102)

(19b) 性格悪い?? うん!!! ←シャイ?? そこそこ ^ ^ よくしゃべる? そこそこ←疲れた?? (ブログ: OY14\_46102)

(20) しょうばいはどうだと、甲斐が訊いた。まずまずというところですよ。幾らか好転したのか。もう少し待ってみたいとわかりません。(書籍: LBBr9\_00176)

以上より、「①応答表現」は全体を通して「まあまあ」に現れやすく、肯定の応答詞と共起す

---

(b) 「菊江さん、インターネットにくわしいの?」「ええ。まあ。そこそこに。」(書籍: PB19\_00337)

る場合は、「肯定の度合いをやや下げる機能」を持つことを確認した。肯定の応答詞と共起しない場合、前後の文脈から明らかな肯定であると認められるものも数例あるが、多くは良いのか悪いのか明確でない曖昧な応答となる。肯定か否定かで問われれば肯定に偏るが、その肯定の度合いが高くはない、明確な肯定を抑える機能が「まあまあ」にあると考えられる。

### 5. 相対的評価表現の詳細分析

本節では、各語が他の評価表現（相対的な基準）を伴う相対的評価表現の詳細分析を行う。相対的評価表現は、「数値を伴って比較される用例（用例(21)）」と、「話し手が設定する任意の基準と比較される用例（用例(22)～(24)）」の2種類に大別された。さらに、後者の場合は、各語が基準となる語句と比較し「上位の評価を表す場合（用例(22)）」、「中位の評価を表す場合（用例(23)）」、「下位の評価を表す場合（用例(24)）」の3種に分けた。これら4通りに用例を分類した結果が表3である。

- (21) 河村と大津が二十一勝を挙げて好調でした。西村も十九勝と頑張りました。三十五歳の私も十七勝していますから、まずまずですよ。ところが、終盤は、この四人がそろってヨレヨレに疲れてしまっただけ。ところが、終盤は、この四人がそろってヨレヨレに疲れてしまっただけ。(書籍：PB57\_00070)《比較基準が数値》
- (22) 「まだまだだけど、ずっとよくなかった中ではましかな」と話したものの、表情はさえないかった。1回目はまずまずだが2回目に失敗した。(新聞：PN5e\_00020)《基準比上位》
- (23) 窓口の対応について、どう感じられましたか。 親切 53% まあまあ 42% 感じ悪い 5% (広報誌：OP47\_00003)《基準比中位》
- (24) 久しぶりにステーキを食べた。しかも居酒屋という和洋折衷混ざりあう場所で、味はすこぶる。値段はそこそこ。肉もそこそこ。技で底上げをしているものを、相変わらずはいよと差し出してくれるとは思えない(ブログ：OY03\_05893)《基準比下位》

表3 相対的評価用例の下位分類

	具体的な数値基準	任意の基準			合計
		上位	中位	下位	
まずまず	5	5	2	0	12
	41.7%	41.7%	16.7%	0.0%	100.0%
まあまあ	2	7	11	6	26
	7.7%	26.9%	42.3%	23.1%	100.0%
そこそこ	0	7	1	6	14
	0.0%	50.0%	7.1%	42.9%	100.0%

表3より、各語が取りやすい相対的評価表現の種類には違いが見られることが分かる。「まあまあ」は用法が多岐にわたって一定数見られ、その中でも「任意の基準と比較し中位の評価を表す」用例が多いのに対し、「まずまず」は、具体的な数値基準と比較する用例、あるいは基準に対して上位の評価を示す用例を多くとる。「そこそこ」は具体的な数値と比較したうえで評価をくだすタイプの用例が一例も見られず、任意の基準と比較する場合は、「下位」を表す用例出現率が高いという点が特徴的である。

以下、それぞれの用例の詳細を見る。まず、「具体的な数値による比較が可能」な用例について述べる。

- (25) 甘谷の戸数は三十余家にすぎないが、百二、三十歳を長寿と呼び、百歳あまりというのがまずまずで、七、八十歳で死ぬと「大夭」(早死)だといわれた。(6)再掲
- (26) 河村と大津が二十一勝を挙げて好調でした。西村も十九勝と頑張りました。三十五歳の私も十七勝していますから、まずまずですよ。ところが、終盤は、この四人がそろってヨレヨレに疲れてしまっただね。(21)再掲
- (27) 勝ち負けに明確な一線を引くのは難しい。負けることが次の取引の条件になることもあるからいよいよ勝ち負けの判別はつけにくい。予定の六割か七割が実現してまあまあ、八割近くもできれば慶賀すべきではなかろうか。(書籍：PB44\_00330)

ここに分類される用例は、話題とされている事柄の程度レベルは数値(用例波線部)によって既に規定されている。つまり、「まずまず」または「まあまあ」は事柄の程度を表す役割を担っているとは考えやすく、「既に説明されている物事のレベルに対する話者の見方(評価)」を示す機能を担っていると考えるのが自然である。(25)~(27)はいずれも「長寿」、「好調」「慶賀すべき」などという「望ましい評価」が示され、その1段階下の評価として「まずまず」または「まあまあ」が用いられている。ここから、「まずまず」「まあまあ」は、数値基準を伴って話者の見方(評価)を示す場合の多くは、「望ましい評価と比較して1段階下の評価」を表すと考えられる。

また、これらの用例の多くは基準となる数値は示されているものの、その数値は厳密なものではない。例えば、(25)であれば、「100歳あまり」の記述からも分かるように、基準となる数値は具体的な一点を指しているわけではなく、幅をもつ。(27)も基準となる数値が「六割か七割」とあり、幅を持たせる形で設定されている。(26)は一見すると「十七勝」という具体的な数値が出ているようにみえるが、十六勝であれば「まずまず」といえなくなるのか、十八勝できていたら「まずまず」とは別の評価が期待できたのかなどは定かでない。「十七勝」自体は具体的な数値であるが、その数値は話者が設定したおよその目安に過ぎない。

以上より、具体的な数値を基準として伴う用例は、「厳密ではない目安となる基準値」が設定された上で、「望ましい評価の1段階下の評価」を示す場合の用例であると考えられる。ここに「そこそこ」が用いられていない点から、数値としての規定がなされている状態で話し手の評価(望ましい評価の1段階下の評価)を示す場合は「そこそこ」で表しにくいという可能性が高い。

次に、任意の基準と比較するタイプの用例について詳細分析を行う。以下、(28)~(30)はいずれも「任意の基準より上位の評価になる」用例である。

- (28) ほかの試験も受け、「TOEICはだめだったけど、こっちはまずまず」というように、やる気を維持しました。(書籍：LBs8\_00005)
- (29) 私は、かつて、大きめLサイズの薄めの生地のジーンズを購入したのですが、大きすぎて、ウエストはまあまあでしたが、ウエストから下の腰周りがブカブカで、筆箆のこやしになっています。(知恵袋：OC09\_00558)
- (30) ガンガン殴られてたし、コーチから。殴られるわ、残されるわ。練習嫌いなんすよ(笑)。試合じゃそこそこなんですけど、練習で頑張れとか言われるともうやる気なくなって。

(書籍: PB47\_00154)

(28)~(30)の用例では、いずれも「だめ」、「ブカブカ」「やる気なくなつて」といった評価と比較して、話題となる事柄が相対的に上位の評価であることを示している。このタイプの用例は3語に共通して一定数見られる<sup>5</sup>。一方、複数の基準と比較し「中位の評価」を表す用例については、出現率に差が見られる。以下、用例を挙げながら考察する。

- (31) ★★★ ほしみつつです (★完食できず ★★★んー、いまいち ★★★まあまあ ★★★うまい ★★★★★極旨!) ひとくち目は、海系の香りと味と新鮮なインパクトさに「おっ!」と思ったのですが、食べていくうちに食べ飽きてしまうというか… (ブログ: OY03\_05246)
- (32) 窓口の対応について、どう感じられましたか。 親切 53% まあまあ 42% 感じ悪い 5% ((23)再掲)
- (33) これに見るかぎり、白とブルーがもっとも好ましく、グレイや茶色はまずまずだが、あとは避けたほうがよいということだろうか。(書籍: LBS9\_00136)
- (34) 奥様に再度質問です。稼ぎへっぽこ帰宅は定時稼ぎそこそこ帰宅バラバラ稼ぎたっぷり帰宅するかもわからない※帰宅が遅いのは決して仕事では有りません。プライベートです。どの彼がいいですか? (知恵袋: OC09\_14622)

(31)は星の数で5段階評価をしているうちの3番目の評価として「まあまあ」を使用している。この用例がYahoo!ブログの中に5例見られた<sup>6</sup>。(32)は「親切」と「感じ悪い」の間の評価、(33)は「もっとも好ましく」と「避けたほうがよい」の間の評価、(34)は給料について「へっぽこ」と「たっぷり」の間と、3段階評価のうちの間にあたる評価をくだしていることがわかる。しかし、「まずまず」と「そこそこ」においては、わずかな用例しか見られず、あまり頻繁には使われないようである。「良くも悪くもなく、ちょうどその間」であることを示す、中位を表す用法は3語の内、「まあまあ」が中心に担っているといえる。

続いて、話者の任意の比較基準に対して下位の評価を表す用例を挙げる。

- (35) よく世間では、あの人は大器晩成型などと言いますが、その場合はどちらかといえば、あまりほめたようには使わないことが多いようです。つまり、いまはまあまあだけれども、そのうちになんとか一人前になるだろう、といった調子です。(ブログ: OY15\_12241)
- (36) 妻が乳を飲ませた子をも、まるで自分の子のようにして、女の児はまあまあだが、男の児は、べったり付き添って世話を焼き、すこしでもその子のお言いつけに背く者をば、迫害したり、讒言したり、始末に負えないが、(書籍: LBo9\_00066)

<sup>5</sup> 対象語と比較が可能な基準を持つ用例(相対評価表現の用例)を抽出するにあたり、「同一の観点から話題となる事柄を評価している語が使用されているかどうか」を分類の基準とした。例えば、(28)は「試験の成績の評価」という観点から、(29)は「衣服の大きさの評価」という観点から、(30)は「(スポーツに対する)やる気の度合い」についての観点から、対象語と基準となる評価表現が比較されていることがわかる。以下に挙げる(c)の用例は、一見「悪い」という評価表現と比較される形で「まあまあ」が使用されているように見えるが、「まあまあ」が「技術」に関する評価を示しているのに対し、「悪い」は「紙質」に関する評価を示すものであるため、相対的評価表現とみなさない。

(c)当時の写真製版の技術はまあまあだが、なんと言っても紙質が悪い。(書籍: LBF9\_00184)

<sup>6</sup> 文体から、おそらく同一の書き手によるものだと思われる。ただし、その5例を除いた場合を考えても、「まあまあ」には「相対的に中位を表す」用例が6例認められることから、他の2語より使用されやすいことがわかる。



(37) 日本酒はまあ、そこそこだったけど、食べ物が美味しいからOK♪(ブログ:OY11\_04585)

(38) 「ああ、ごく普通です。死亡一時間前に軽い食事。胃の中に大量のウイスキー、血液  
中にもそこそこ。ぐっすり眠れるくらいの量」「酔いつぶれるほどじゃ？」  
(書籍:PB59\_00290)

(35)～(38)は、それぞれ「一人前」や「べったり付き添って世話を焼き」「美味しい」「大量」と比べ、そのような評価より下位の段階であることを示すのに「まあまあ」あるいは「そこそこ」を用いている。ただし、(35)、(37)に見られる基準となる評価(「一人前」「美味しい」)が明らかに話し手のプラスの評価なのに対し、(36)、(38)に見られる基準となる評価(「べったり付き添って世話を焼き」「大量」)は「プラスの評価」であるかどうか疑問が残る。単に「程度量が大きい」ことを示す表現であるとみなすほうが自然である。「まあまあ」「そこそこ」は基準と比較して下位の評価を表しうるが、それらの用例は必ずしも「望ましい評価に対して望ましくない評価」を表しているとは限らず、話し手のプラスマイナスの評価性の薄い「程度量が比較的小さい」場合にも用いられるものと捉えられる。これらの用例は「まずまず」には見られない。「まずまず」は比較基準を持ち出し、それより下位の評価を表す場合には用いられにくいと考えられる<sup>7</sup>。

以上より、相対的評価表現の用例の中では、数値を基準としてもつ用例が「まずまず」に多く見られること、任意の基準と比較する場合の用例は、比較的上位の評価を「まずまず」が中心に担い、中位の評価は「まあまあ」が中心に担当することを確認した。また、基準と比較して下位の評価を表す用例は「まあまあ」と「そこそこ」のみに見られるが、それらの用例の中には、明らかにプラスの評価と比較してそれより下位の評価を示す用例と、(話し手の評価判断が明確でなく)程度量のレベルが比較的低いことを示す用例とが存在することを示した。

## 6. 絶対的評価表現の詳細分析

本節では、対象語が比較基準を伴わない絶対的評価表現の詳細分析を行う。絶対的評価表現の用例では、前後の文脈などから「高評価」を示すと判断されるもの、「低評価」を示すと判断されるもの、その中間に位置する「中評価」を示すと判断されるものの3種類が見られた。例えば(39)は、後続文脈の「一応の面目は保つことができた」から「まずまず」という評判は高評価であると判断できる。(40)は、先行文脈に「普通に会社勤めをし」とあり、それに並列させる形で「家庭もそこそこ」とあることから、「そこそこ」は高くも低くもない中間的な評価であると読みとれる。(41)は先行文脈に「あまり練習できなかったので」というマイナス要素の理由を伴っていることから、「まあまあ」は低いレベル(低評価)に留まるとみることができ

(39) 俳句結社のごく限られた仲間以外、その名前を知らない俳人のことなど、興味を持つ人間はいない。ただし、編集部の評判がまずまずであったことで、一応の面目は保つことができた。《高評価》(書籍:PB19\_00467)

(40) 普通に会社勤めをし、家庭もそこそこ、俺にはそんな生き方が性に合っている。

<sup>7</sup> ただし、具体的な数値基準を伴う用例(25)(26)の場合は「まずまず」に対して、さらに上を表す評価語が出ていることから、「まずまず」が「まあまあ」「そこそこ」と比較し、特別に高い評価を表すというわけではないと考えられる。ここで示されるのは、「まずまず」は、任意の比較基準を伴い、「あえてそれより低める評価」をするという場合が少ないという点である。

《中評価》（書籍：LBj3\_00099）

(41) 今日のレッスンは、大阪に行つててあまり練習できなかつたのでまあまあ。まずスケール、クリア。移調も問題なし。メゾ・スタッカート部分はスラーがかかっているので音が短くなりすぎないように気をつけるべし、と。《低評価》（ブログ：OY04\_01527）  
ただし、絶対的評価表現は比較基準が見られないため、用例の情報だけでは明確な評価の判断が困難なものもみられた。これらは、評価が不明瞭なものとして「評価不明瞭」と分類した。「評価不明瞭」の用例の中には、(42)のように話題となる事物（ここでは「燃費」）の程度が数値などによって示されるものと、(43)のように話題となる事物（ここでは「値段」）の程度が受け手に示されないものがある。

(42) とにかくにも、ちょっと寒くなりましたが、まだまだ楽しめそうな感じであります！！ちなみに燃費は リッター 十六、四五キロ！まずまず！？《評価不明瞭・数値あり》（ブログ：OY15\_13402）

(43) 本格イタリア料理店に行つて来ました。美味しかったです。値段はそこそこ。。シーザーサラダしか撮っていませんが。。《評価不明瞭・数値なし》（ブログ：OY14\_32691）  
以上の、下位分類を施した結果を、表4に示す。

表4 絶対的評価用例の下位分類

	明確な評価			不明瞭		合計
	高評価	中評価	低評価	数値あり	数値なし	
まずまず	65 57.0%	0 0.0%	0 0.0%	13 11.4%	36 31.6%	114 100.0%
まあまあ	59 43.1%	15 10.9%	2 1.5%	11 8.0%	50 36.5%	137 100.0%
そこそこ	27 45.0%	8 13.3%	4 6.7%	1 1.7%	20 33.3%	60 100.0%

表4より、どの語においても、最も出現率が高いのは「高評価」と判断できる用例であり、次いで「不明瞭」の数値を伴わない用例となっている。特徴的なのは、「まずまず」が「中評価」「低評価」で全く見られないという点と、数値によって事物の程度を示す文脈で用いられる「そこそこ」の用例が非常に少ない点である。

以下、それぞれの分類項目についての詳細を述べる。

(44) 俳句結社のごく限られた仲間以外、その名前を知らない俳人のことなど、興味を持つ人間はいない。ただし、編集部の評判がまずまずであったことで、一応の面目は保つことができた。(39)再掲)

(45) 義姉さんは優しいし、須美ちゃんの料理だってまあまあです。(書籍：LBm9\_00076)

(46) 冷やし天ぷらおろしうどん？とミニハンバーグ丼を食べる。まあ値段も安いし（忘れちゃったけど）味もそこそこ。でももうちょっと量があればいいんだけどな…。(ブログ：OY03\_03263)

(44)～(46)は「高評価」と判断できる用例である。3語の出現率の差はそれほど大きくなく、3語に共通する用例とみられる。述部に現れる「まずまず」「まあまあ」「そこそこ」は割合でみる限り、話し手にとって「高評価」の場合に出やすいといえる。次にみる(47)～(49)は「中評

価」と判断される用例である。

- (47) 自然にそうやってきたただけだ。面白いこともあれば面白くないこともある。まあまあだよ。でもそれなりに自分のスタイルはあるんだよ。(書籍：LBf9\_00069)
- (48) ポジティブ思考で養生を守り、それなりに、まあまあで暮らすことです。青春よ 元氣と愛と 優美さと魅力にあふれている青春よ！！(書籍：PB34\_00269)
- (49) 普通に会社勤めをし、家庭もそこそこ、俺にはそんな生き方が性に合っている。(40再掲)

(47)は、「面白い」という良いときもあり、「面白くない」という悪いときもあり、総合すると「まあまあ」になる、という話し手の評価が表れている。(48)は、「それなりに」という評価を抑える語と共起しながら、「取り立てて高くもなく低くもない」という評価をくだしている。(49)は、「普通に」と並列する形で「そこそこ」が用いられており、評価が高くもなく低くもなく「一般的に想定される程度」を指そうとしていることが読み取れる。相対的評価表現では、他の評価語と比べる形(例えば、「親切」、「感じ悪い」の間の評価としての「まあまあ」など)で対象語が用いられていたが、絶対的評価表現では、「それなりに」「普通に」など、他の中間的評価をくだす語によって意味を補うことで、中間的評価の意味合いを補強しているように見える。ここに分類される用例は、高評価の用例と比較すると少なくなるものの「まあまあ」「そこそこ」で一定数見られる。「低評価」と判断できる用例については、さらに出現率が下がるが、こちら「まずまず」に1例も見られないのに対し、「まあまあ」「そこそこ」では複数例見られる。

- (50) 今日のレッスンは、大阪に行つててあまり練習できなかつたのでまあまあ。まずスケール、クリア。移調も問題なし。メゾ・スタッカート部分はスラーがかかっているので音が短くなりすぎないように気をつけるべし、と。(41再掲)
- (51) この姿勢は十五世紀の半ばにはやや緩和されたが、女性ができるだけすばめた肩と、できるだけ長く細い首に座った頭を前に突き出すものである。そのために、胸は引っ込み、乳房の出っ張りもまあまあということになる。(書籍：PB23\_00781)
- (52) クエ進行したいキャラ達が、あんまり習得が進んでなかつたり装備もそこそこだったりしたのもあって、ある意味ちようどいい緊張感と強さでしたね。(ブログ：OY15\_15403)
- (53) 欠点があり、苦手なことがあり、できないこともあり、能力はそこそこで、心も弱い。親にはあまり愛されなかつたし、人から褒められたこともない。(書籍：LB13\_00098)

(50)～(53)は波線部の表現から「まあまあ」あるいは「そこそこ」が低評価を表すものであると捉えられる。ただし、いずれの用例も「著しい低評価」を表しているわけではない。例えば、(50)は後続文脈に「クリア」「問題なし」などの表現があることから、著しく質の低い練習であったとは考えにくい。(52)に関しては、ゲームのクエストを進めていく中での記述であるが、装備の質が劣悪であれば、緊張感を持つ前にゲームの進行が不可能になってしまう。「そこそこ」は「それほど強くはない」といった程度の「やや低めの評価」と考えられる。

ここで、相対評価表現の中の「下位」に分類される用例を再度挙げる。

- (54) よく世間では、あの人は大器晩成型などと言いますが、その場合はどちらかといえば、あまりほめたようには使わないことが多いようです。つまり、いまはまあまあだけ

ども、そのうちになんとか一人前になるだろう、といった調子です。(35)再掲)

(55) 日本酒はまあ、そこそこだったけど、食べ物が美味しいからOK♪ ((37)再掲)

上記の相対的に下位の評価を表す用例にも、先に述べたことと同様のことが言える。(54)は人として「一人前」であることと比較して、今は「その段階に到達していない」ことを示すのに「まあまあ」が用いられている。しかし、「一人前」からかけ離れた低い状態に留まっているとは考えにくい。(55)は、食べ物が「美味しい」のに対し、日本酒は「そこそこ」と評価を低めているが、もし、日本酒の味が明らかに「不味い」のであれば、最終的に「OK♪」という感想は生まれまいだろう。日本酒も、食べ物と比べると低い程度になるもののある程度のレベルにあると認められる評価であると考えられる。

以上より、低評価の用例は、「まあまあ」「そこそこ」に一定数認められるが、甚だしく悪い評価を与えようとしているわけではなく、「どちらかといえば低い」といった程度の評価を指すことを確認した。

次に、評価の判断が不明瞭となる用例の中で、数値を伴うものを挙げる。

(56) とにもかくにも、ちょっと寒くなりましたが、まだまだ楽しめそうな感じでありませす！！ちなみに燃費は リッター 十六、四五三キロ！まずまず！？《受け手判断・数値あり》((42)再掲)

(57) 青島ビールは1本6元やったから、まあまあかな。(ブログ：OY11\_05552)

(58) ネジを増し締めしたし、グリスアップもしたし、ワックスもかけたし、残すはタイヤ交換のみ。でも、ソコソコだろうな～、価値にして5～6万円てどこ？店売りだったらどうだろうか・・・。(ブログ：OY15\_05613)

ここに分類される用例は「まずまず」「まあまあ」で10例を超えているが、「そこそこ」は(58)に見られる1例のみである。相対的評価表現で見た「具体的な数値の基準を伴う用例」と同じく、話題となる事物の程度が数値によって規定されている場合は、「そこそこ」はあまり使用されない。「まずまず」「まあまあ」は既に数値によって程度が規定された物事に関しての話し手の見方(評価)を示す場合にも用いられるのに対し、「そこそこ」は話し手の評価的な判断のみを伝達することは稀であると考えられる。

続いて、評価の判断が不明瞭、かつ数値を伴わないものについて見る。ここに分類される用例は、3語ともに「明確な高評価」の用例に次いで頻出する用例である。

(59) 淑子とピアノとバイオリン合わせる。まずまず。母の足も洗う。母の癌の傷跡に、ステロイド入りの軟膏を塗ったら少し良くなった。(書籍：PB15\_00332)

(60) 母ちゃん、お湯にさとうをいれて、レモンをうかべてくれた。あじはまあまあ、見かけは父ちゃんのおんなじ。(書籍：LBen\_00018)

(61) 本格イタリア料理店に行ってきた。美味しかったです。値段はそこそこ。。シーザーサラダしか撮っていませんが。。あとは食べちゃったので。。((43)再掲)

(59)～(61)の用例は、いずれも前後の文脈から対象語の評価の高低を読み取ることは難しい。(59)は、対象語の意味を推測させる前後文脈が見られず、「まずまず」のみを用いて話し手の評価的な判断を示そうとしている。(60)は、母ちゃんが作ってくれた飲み物に対して、「見かけは父ちゃんとおんなじ」と言っていることから、味については「おんなじ」とは別の評価をしようと「まあまあ」を用いていると考えられるが、それが高評価なのか低評価なのかは明確でない。(61)は料理の味が「美味しかった」ことを述べた後に、「値段は」と続けていることから、

## 述部に現れる「まずまず」「まあまあ」「そこそこ」の評価的機能

味の評価より値段の評価が低くなることが予想されるが、その値段を不満（低評価）だと判断したのか妥当（中評価以上）だと判断したのかは不明である。このタイプの用例が見られる理由は2点考えられる。1点目は、そもそも話し手の評価が具体的に定まっておらず、曖昧に表現されているからという理由である。4節の応答表現による分析に記述したとおり、「まあまあ」には「肯定の度合いを抑える」評価的な機能がみられる。応答表現に限らず、「高い」とも「低い」ともいいきれない、不明瞭な評価的な判断が絶対的評価表現の用例にもみられると考えることができる。2点目は、文脈に依らずとも、語に対する話し手の評価が一定である、言い換えれば、前後文脈で明確に評価性を示さずとも、どのレベルの評価であるかが受け手に伝わるからという理由である。「まずまず」の場合、「低評価」あるいは「比較基準を伴って下位を示す」用例がみられず、絶対的評価表現においては「中評価」の用例も見られない。話し手が示す評価は「ある一定水準以上の高いもの（ただし理想的な状態ではない）」に限定されると考えられる。そのため、前後の文脈に評価判断に至る説明的な要素を入れる必要がないのである。このように、不明瞭に分類される用例の出現理由は、「まずまず」に関しては「原則、一定水準以上の評価を示す」機能によるものであり、「まあまあ」の場合は「肯定（高評価）の度合いをやや抑える」機能によるものであるとの見方が可能である。この点については、述部に現れる用法以外の用例を見ることで今後詳細に分析していく必要がある。

## 7. まとめ

本稿では、各語が述部に現れるときの用例を、「応答表現」と「相対的評価表現」と「絶対的評価表現」に大別し、それぞれの用法について共起条件や評価の肯定によって下位分類を施し、分析を行った。以下、項目ごとの用例数と出現率を表5にまとめる。

表5 項目別の用例数・出現率

		応答表現			相対的評価表現				絶対的評価表現					合計
		肯定共起	肯定応答	曖昧応答	数値基準	任意の基準			明確な評価			不明瞭		
						上位	中位	下位	高評価	中評価	低評価	数値あり	数値なし	
用例数	まずまず	1	0	1	5	5	2	0	65	0	0	13	36	128
	まあまあ	5	4	20	2	7	11	6	59	15	2	11	50	192
	そこそこ	1	0	6	0	7	1	6	27	8	4	1	20	81
出現率	まずまず	0.8%	0.0%	0.8%	3.9%	3.9%	1.6%	0.0%	50.8%	0.0%	0.0%	10.2%	28.1%	100%
	まあまあ	2.6%	2.1%	10.4%	1.0%	3.6%	5.7%	3.1%	30.7%	7.8%	1.0%	5.7%	26.0%	100%
	そこそこ	1.2%	0.0%	7.4%	0.0%	8.6%	1.2%	7.4%	33.3%	9.9%	4.9%	1.2%	24.7%	100%

「まずまず」は3語の中で、出現しやすい環境と出現しにくい環境が最も明確である。「下位」、「低評価」の用例は見られず、「中位」「中評価」に分類される用例も1.6%とわずかである。一方で、「高評価」の用例は5割を超え、数値を伴う用例出現率も合計14.1%と他の2語より高い。「高評価」を表す傾向が特に強いことから、「まずまず」は「ある一定水準以上の高評価」を示す機能をもち、表し得る評価の範囲が3語の中で最も限定的であると考えられる。また、

数値を伴う用例の出現率が高いことから、「まずまず」の「程度を限定する」役割は必須ではなく、話し手の評価（一定水準以上であること）を示す評価性の意味機能が強いといえる。

「まあまあ」は、他の2語と同様「高評価」の用例の出現率が最も高いが、その他の用法も広く見られる。中でも「曖昧な応答」、「中位」、「中評価」を表す用例の多さが特徴的である。これらの用例が多くみられるのは、「まあまあ」に「肯定（高評価）の度合いを抑える」評価的機能があるからだと考えられる。応答表現の用例では、肯定の応答詞と共起したり、肯定的な返答として用いられたりし、絶対的評価表現の用例では「高評価」の出現率が高いことから、「まあまあ」も基本的には、ややプラスの評価を表す際に用いられるものと考えられる。しかし、「まあまあ」にはそのプラスの評価を抑える機能がある。そして、「肯定（高評価）の度合い」が抑えられた結果、「曖昧な応答」や「中間的な評価」、ときとして「低評価」にもなり得るのだと考えられる。

「そこそこ」は、数値を伴う用例が1例のみと非常に少ない点の特徴である。数値が規定される用例とは、話題となる事柄の程度が明らかな例ともいえるので、数値を伴う事柄に対する言及として対象語が用いられた場合、その主な働きは「評価面」の表明であると考えられる。すると、数値を伴う場合に「そこそこ」が用いられにくいということは、「そこそこ」が話し手の評価や態度を中心に伝達するのに不向きであることを示す。つまり、「そこそこ」は他の2語と比較し「評価面」を伝達する機能がやや弱いと考えられる。これは、「そこそこ」がそもそも述部に現れにくい<sup>8</sup>こととも関連すると思われる。ただし、「そこそこ」においても絶対的評価表現の「高評価」に用例が見られやすいことなどから、評価的な意味は含まれるはずである。「そこそこ」独自の評価的機能の明確化については今後の課題としたい。

#### 引用・参考文献

- 工藤浩(1983)「程度副詞をめぐる」渡辺実編『副用語の研究』明治書院, pp176-198  
 鈴木夕佳(2011)「配慮の機能を持つ副詞についての一考察——『そこそこ』を中心に——」『日本語コミュニケーション論集』(1), 日本語コミュニケーション研究会, pp82-89  
 田和真紀子(2011)「程度副詞の評価性をめぐって」『宇都宮大学教育学部紀要』(61), pp25-36  
 仁田義雄(2002)『新日本語文法選書3 副詞的表現の諸相』くろしお出版  
 苗田敏美(2003)『「まあまあ」の表す程度について』『日本語教育論集』(12), pp80-88  
 渡辺実(1990)「程度副詞の体系」『上智大学国文学論集』(23), pp1-16

#### 例文出典

国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（中納言 2.4.5、データバージョン 2020.02 を使用、最終閲覧日 2020年8月29日）<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search>

<sup>8</sup> 程度を表す用法のうち述部に対象語が表れる用例は「まずまず」「まあまあ」で約4割なのに対し、「そこそこ」では1割強に留まる。3節の用例の検索結果を参照されたい。